

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(新津小・新津中)学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 委員がCS(コミュニティスクール)について理解をさらに深め、委員同士が意見を出し合える関係づくりに努めたい。また、学校支援コーディネーターを学校と地域のパイプ役として、CSの効果を一つでも残し、家庭・地域の力を学校に生かせるようにしたい。
- 学校の課題に対して、委員全員でアイデアや方策等を考え、提案していきたい。

<評価項目1>学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 小中それぞれの学校運営の基本方針について、校長の説明を聞きよく理解できた。9年間を通じたキャリア教育の取り組みについてもよく理解できた。地域との連携、基礎学力(特に英語教育)などについて協議し、子供の安全・安心の確保に寄与できることを確認することができた。
- 協議会の会を重ねるごとに、学校の方針や学校の考えへの理解を深めることができていく。発言することで、共有できる考えが増え、自己への落とし込みもできた。改善点に対する議論を交わす中で、理想と現実のギャップが見えてくることが多く感じる。

<評価項目2>承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 熟議によって、中学校区が目指す「夢の実現に向けて 自ら実践し たくましく伸びる子」を目指す上で、学校支援活動の重要性を理解した。
- 学校からの必要な支援を元に、保護者が出来る事、地域で出来る事を分け、協力し合う必要があり、それぞれが、きちんと理解し実践することの重要性も確認することができた。
- 子どもには、沢山の情報を大人から提供し、将来の進む道を拓いて貰いたい。地域を知り、地域の人と触れ合う事の大切さも分かって欲しい。地域として部活動等に関わることによって、教員の負担軽減につながる事、ひいては、児童・生徒への関わる時間の担保ができることに心惹かれた。

<評価項目3>協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 情報発信については、まだ、十分とは言えない。強化が必要と感じる。
- 委員が所属している組織やネットワークに、どのような方法で発信すれば効果的に伝えることができるのかを検討し、学校運営に興味関心を持つ保護者や地域住民に協議会の情報が届くと、学校支援活動や協働活動の活性化につながると思う。

<評価項目4>今年度の取り組みの評価を踏まえた来年度の目標(取り組みの重点)

- 協議会では、メンバーが、それぞれの立場から、現実性のある提案をされたので、広い視野のもと、改善策を考えることができたと思われる。今後は更に、具体的な学校支援活動について、より具体的、計画性のあるものにすべく、充実させるべきと考える。
- 特に、学校への支援活動について、小学校と中学校で分かれて熟議をした結果を伝えて終わりにするのではなく、その結果に対して相互に質問したり、アイデアを出すなどの助言をしたりすることで、異なる視座からの示唆を得ることにつながると思う。そうすることで、学校支援コーディネーターの具体的な活用の案も出てくる可能性があると思うため、そのような時間を確保していきたい。